

### 3 独国の旧植民地回復要求問題

383

昭和12年2月12日  
在仏国三谷(隆信)臨時代理大使より  
林外務大臣宛

#### 独国の旧植民地回復要求に関する新聞論調報告

付記一 昭和十一年九月十六日發在独国武者小路大使

より有田外務大臣宛電報第二二三号

植民地問題解決に関する要求を放棄しないな  
どヒトラー宣言書の發表について

二 昭和十一年十二月二十一日付在英国吉田大使

より有田外務大臣宛公信普通第七八三号

植民地問題に関する独国大使演説と英国新聞

論調報告

公第一二一號 (3月6日接受)

昭和十二年二月十二日

在 佛

臨時代理大使 三谷 隆信(印)

外務大臣 林 銑十郎殿

獨逸ノ舊植民地返還要求問題ニ關スル新聞論調報告ノ件

獨逸ノ舊植民地返還要求問題ニ關シテハ當地輿論ハ頗ル敏感ニシテ該問題力提起セラルル毎ニ新聞ハ一齋ニ論評ヲ揭ケタル次第ハ客年十月廿六日附往信公第七二六號及本年一月七日附第一一號ヲ以テ既報ノ通ナル所今般一月卅日ノ「ヒツトラー」演説及夫二次キ英京ニ歸任セル駐英大使「リツペントロツプ」氏ノ該問題ニ關スル對英交渉開始方ノ訓令攜帶説ニ端ヲ發シ本問題再燃スルヤ當地輿論ハ例ノ如ク囂然タル反響ヲ示セリ、其一般論調ハ從前ニ異ル所ナシト雖モ何等御參考迄ニ左ノ如ク摘要報告ス

#### 記

一、當地新聞ノ大多數ハ本問題ニ關スル倫敦情報ヲ掲載シ主トシテハ右情報ヲ基礎トシテ論評ヲ加フ、即チ當地輿論ハ本問題ハ所詮英國政府ノ態度如何ニ懸ルトナシ、其如何ニ依リ佛國モ最後の決定ニ出ツヘシトスルモノノ如シ、英國ノ態度ニ關スル情報トシテ一般ノ強調スル所ハ「英國ハ

舊獨逸植民地ノ返還ニ反對ス」「殊ニ植民地ノ反對ハ強硬ナリ」ト言フニアルモ英國ノ態度豹變ノ可能性ニ對スル危惧ノ念ハ言外ニ表ルル所ナリ、故ニ一般ノ論評ハ其ノ態度豹變カ佛國利益ニ反セサル様英國政府ノ注意ヲ促スニアル事、各紙ヲ通シテ窺ヒ得ル所ナリ

二、舊獨逸植民地ノ單獨返還ハ凡ユル點ニ於テ危險ヲ齎スモノナルヲ以テ、植民地返還ト一般問題解決ハ之ヲ併行セシメサルベカラストナス點ハ各紙ノ一致スル所、更ニ「シヤハト」博士ノ唱フル如キ植民地ノ經濟的利益ニ付テハ其理由ナキヲ或ハ統計ヲ以テ或ハ過去ノ獨逸植民史ヲ以テ説述シ、獨逸ハ經濟的理由ニ依リ舊植民地ノ返還ヲ要求スルニ非ス、寧ロ政治的理由、國家ノ威信等ニ出ツルモノニシテ、從テ經濟的考慮ヨリ植民地ヲ返還スル如キ有害無益ナリト説クモノ多シ

三、唯從前ト異ナルハ今回ハ獨逸ニ舊植民地ヲ要求スルノ權利アリヤ否ヤノ問題ヨリモ寧ロ右ニ述ヘタル如ク獨逸ノ理由ノ正否、舊植民地返還ト一般政治問題トノ關係等實質的問題ニ論據ヲトレル事ナリ

四、一部新聞ハ「ヒットラー」ノ植民地返還要求ヲ以テ寧

ロ英獨提携ヘノ探り及英獨二國會談ニ依ル英佛關係離間策ナリトナシ、危惧ノ色ヲ示セリ

右報告申進ス

尙詳細ハ別添新聞切抜ニ依リ御承知相成度

(省略)

本信寫送付先 在英、獨大使

## (付記一)

ベルリン 9月16日後發

本省 9月17日前着

## 第二二三號

第八回「ナチス」大會ハ八日ヨリ十四日迄「ニユルンベルグ」<sup>(1)</sup>ニ於テ開催「ナチス」各團體(特ニ最後ニ Wehrmacht)ヲ加ヘタルコト昨年通り)ノ參加數十萬ニ達シ「ヒ」總統ハ九日其ノ施政方針ト見ルヘキ宣言書ヲ發表シ「バイエルン」總理兼黨首席「ワグネル」ニ代讀セシメタルカ右ハ前ニ「ナチス」政權過去四箇年各方面ニ於ケル事績ヲ舉ケタル後經濟問題特ニ原料自給及植民地要求問題ニ言及シ新ニ四箇年計畫ヲ樹テ今後四年間ニ全力ヲ以テ之カ達成ヲ期スル旨ヲ述ヘ而モ原料問題以外植民地問題解決ニ關スル要求

ヲ抛棄セサル旨(但シ地域、時期、手段等ノ具体的案ヲ示サス)公式ニ宣言セル後共產主義ノ慘禍ヲ擧ケ之カ打倒ニ全力ヲ傾到スヘシト絶叫シタルカ豫想ニ反シ一般外交問題ニ言及セサリシハ注意ニ値ス尙同總統八十日ノ大會分科會議及閉會式ニ於ケル演說ニ於テ又「ゲツベルス」及「ナチス」教育部長「ローゼンベルグ」モ大會中共產主義ノ毒禍ヲ詳説シ加フルニ「コミンテルン」即チ勞農政府ナリト言ヒ之カ打倒ノ爲全世界協力一致スヘキ旨ヲ訴ヘタルカ一部豫想ノ如ク前年ノ例ニ依リ特別議會開催サレス且猶太人問題ハ夫レ自体目標トスルヲ避ケ

之ヲ共產主義ニ關聯セシメテ蘇聯要路者九割八分ハ猶太人ナリトシ兩者ヲ同一視シテ攻撃セルハ從來ノ猶太人問題ノ一轉化ト目セラル要スルニ右宣言及演說ハ「ナチス」政權獲得ノ理由ニ鑑ミ對内問題トシテモ反猶太人、共產主義打倒、植民地要求及經濟問題解決ヲ政綱トシテ高調シ一般國民ノ政府信賴ヲ増シ對外的ニハ獨逸ノ立場ヲ宣傳スルノ要アリタルニ依ルモノナリ

(付記一)

普通第七八三號

昭和十一年十二月二十一日

在 英

特命全權大使 吉田 茂〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

獨植民地要求ニ關スル「リッペントロップ」

演說及「タイムス」社說報告ノ件

獨經濟相「シヤハト」ノ十二月九日植民地要求ニ關スル演說二次キ十二月十五日在英「リッペントロップ」大使ハ Anglo-German Fellowship ニ於ケル同大使夫妻歡迎晚餐會

席上「ボルシェヴィズム」及植民地要求ニ關スル演說ヲナ

シタリ別添新聞切抜ト共ニ要旨左ノ通報告ス

一、「リッペントロップ」演說要領

(一)「ボルシェヴィズム」ニ關シ獨ハ他國內政干涉ノ意全然ナキモ獨國民ノ關心スル所ハ「コミンテルン」ナル國際組織ナリ「コミンテルン」ノ教義ハ嘗テ獨ヲ將ニ紛亂ニ導キタリ余ハ何國モ獨ノ如キ經驗ヲセサラン事ヲ希望ス

(二)獨ハ自給自足國ニ非ス唯輸出ニ依リ其大人口ノ要求ヲ満足シツツアル次第ナルカ右輸出ハ他國ノ輸入及通商協定

ヲ必要トス

(三) 國際情勢ハ政治的經濟的協定ノ可能性ヲ尙前途遼遠トナシ居ルニ鑑ミ「總統」ハ其國民生活程度上ノ爲四ヶ年計畫ヲ開始シタリ右計畫ノ結果ハ獨ヲ一層自給自足化シ國民ノ生活程度上トナルヘシ

(四) 斯ル「アウトタルキー」政策ハ獨ノ意圖ニ非サリシ所ニテ事態ノ止ムナキニ出テタルモノナリ獨國民生活ノ必要ハ他トノ經濟協定成立或ハ植民地領有ヲ俟チ得サリシカ爲ナリ

(五) 去々ラ「總統」ハ國民生活ノ爲ニハ植民地ヲ領有スルト共ニ世界貿易ヲ必要トストノ意見ナルカ植民地問題ノ合理的解決ハ結局ニ於テ世界ノ利益ナルヘシ又「所有」國ト「無所有」國トニ分タル國際現狀ニ於テ自由通商ハ從來以上ニ必要ナリ

(六) 過去ニ於テ好機ヲ逸セル事アルモ右ニ失望セス現存困難解決ノ努力ヲ繼續スヘシ殊ニ政治的方面ニ於テ特ニ然リ獨ハ其安全ヲ他國脅威ニ任スモノニ非サルモ獨立及平等ノ基礎ニ於テ他國ト協力ノ用意アリ英獨ハ嘗テ唯一度爭ヒタル事アルモ右戰爭ヲ繰返スヘカラス蓋シ次ノ戰爭ハ

世界革命即チ「ボルシエヴィズム」ノ勝利トナルノミナルヘキヲ以テナリ云々(註)

(註) 右「リ」演說ニ關シ十七日「ガーディアン」ハ當夜出席者ノ一人ハ右演說ハ宣傳政治家ノ演說ニシテ大使トシテソレニ非ストセリ「リ」ハ「コミンテルン」ハ獨ヲ將ニ紛亂ニ導ケリトセルモ事實ニ反ス又獨ノ植民地缺乏ヲコボシ四ヶ年計畫ハ國民生活ヲ向上セシムヘシト云ヘルモ右計畫カ生活程度ヲ低下シ軍備ノ目的ノミヲ有スル事ハ周知ノ事ナリ要スルニ右演說ハunhappyト目サレツツアリト報ス

二、「タイムズ」(十五日)ハ十二月十四日「イーデン」外相ノBradfordニ於ケル演說(要旨往電第七一三號)中「世界ニ於ケル諸問題ノlasting settlementアランカ(右ハ軍縮協定ヲ含ム)吾人ハ欣然援助ヲ與フヘシ(此點重要ナリ)但シ右ノ如キ援助ノ結果カ軍擴促進世界平和緊張ノ増大トミナルカ如クンハ他國ハ英ノ經濟的財政的援助ヲ期待スヘカラス」云々ト述ヘタル點ニ引用シ「シヤハト」ハ最近植民地問題ニ關スル演說ヲナシタルカ獨ハ「ヴェルサイユ」條約ノ植民地條項ニ反對スルmoral grievanceヲ有スル事明ナ

ルカ「シヤハト」ヲ含ム如何ナル人モ軍事的自給ヲ宛モ純粹ニ經濟的問題ナリトナシ得サルヘシ「シヤハト」ト「イーデン」外相トノ徑程<sup>(電カ)</sup>アル議論ニハ際限ナク單ニ不幸ナル結果ヲ生ムニ止マルヘシ宜シク獨ハ其要求ヲ「イーデン」外相ノ豫想スル一般の商議ノ討議事項トスルノ時機ニ非スヤ英ハ右商議ニ欣然參加スヘシトノ趣旨ノ社説ヲ掲ケタリ(註)

(註)「テレグラフ」(十二月二十一日)ハ英官邊ハ先般ノ通貨ニ關スル三國協定カ國際貿易復活ヘノ期待セル如キ刺戟トナラサリシ事ニ失望シ居リタルカ最近數週間本問題ニ關シ英、佛、米間ニ意見交換(行ハレ新年早々貿易障害除去ニ關スル協力行ハルヘシト期待セラル右協力ハ歐洲ノ繁榮回復ニ資スル所アルヘク獨モ其利益ヲウクル重要國ノ一ナリ但シ獨ニ於テ軍擴促進ニ用フヘカラストノ條件附英援助ヲ忌避セントシ居ルカ如キハ遺憾ナリ權利アル情報<sup>(電カ)</sup>ニ依レハ獨四ヶ年計畫ハ同國參謀本部ノ命令ニ基キタルモノニテ獨ハ國ヲ舉ケテ戰備ニ努メツツアルカ如シト同紙外交記者ノ記事ヲ掲ク

本信寫送付先 獨、蘇

384

昭和12年2月12日

在独国武者小路大使より  
林外務大臣宛(電報)

植民地問題に關して独国政府はいまだ具体的方針を確定していない旨同国外相内話について

ベルリン 2月12日後発

本 省 2月13日前着

## 第五五號

十二日「ノ」外務大臣往訪會談要領左ノ通り

一、獨逸植民地要求ニ付英、佛新聞カ大部書立テ居ルモ右ハ全然妄想ナリ本件ニ關シテハ實ハ獨トシテハ目下ノ處何等具體の方針立チ得サル狀況ニアリ從テ總統議會演說ニ於テモ主義上之ヲ強調スルニ止メ又「リ」大使モ何等具體的訓令ヲ携行セル次第ニハアラス十一日「リ」歸任後ノ「ハリファックス」代理外務大臣トノ會議ノ如キモ一般政局ニ關スル意見交換ニ止マレリ

二、「マラガ」陷落ハ近來ノ快報ナルカ右ハ「ゲイリング」訪羅馬ノ結果スカルヘク期待セルモノニテ此ノ調子ニテ進展セハ英モ實狀ニ即シ政策變更ノ必要ニ迫ラルヘシ三、「スターリン」、「ボロシロフ」内訌說ニ付テハ全然虚構ノ

旨報告アリ露國ニ關スル波蘭情報ハ注意ヲ要ス

四、自分ハ二十日維納直行ノ筈ナルカ右ハ塊太利外務大臣來訪ノ答訪ニ過キス但シ其ノ際客年ノ協定ニ關シ更ニ意見交換スル位ナリト

~~~~~

385

昭和12年9月9日

在独国武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 防共強化を提唱し植民地回復は至当の要求で

#### あると論じたヒトラー宣言書について

ベルリン 9月9日後発

本省 9月9日夜着

第三六八號

七日「ニュルンベルグ」黨大會ニ於テ「ヒ」總統ハ廣汎ナル宣言書ヲ發シタルカ大要左ノ如シ

一、「内政」、「ナチス」施政四年半有餘ニ亘ル間ニ國內秩序完全ニ回復シ國民生活ハ安定ヲ得國勢隆盛ニ赴キ舉國一致益々進展ニ向ヒツツアリ

二、「文化及反共產」、現在文化ノ敵ハ共產主義ニアリ獨逸ハ「ナチス」施政以來共產主義撲滅ニ力ヲ致シタル結果今

日獨逸ニハ共產主義ノ運動スル寸毫ノ餘地ナキニ至レリ獨逸ノ目的トスル所ハ卑近ナル現代爭霸戰ニアラスシテ高遠ナル文化ノ域ニ達スルニアリ

三、「經濟」、「ナチス」施政勿々ノ第一事業タリシ失業救済ハ既ニ完全ニ成功シ同時ニ各種産業ハ復興シ國民ノ勤勉努力ト相俟チ「ナチス」施政前ドン底ニ陥リタル國民經濟ハ今ヤ完全ニ復活シタルノミナラス新四年計畫事業ハ着々進行シ遠カラス自給自足ノ確信ヲ有スルニ至レリ但シ植民地回復ハ依然至當ノ要求ナリト思考シ居レリ

四、「ベルサイユ條約」、「ベルサイユ」條約ハ既ニ死滅シ獨逸ノ自由平等權ハ回復シタル獨逸ノ自由ノ保障タルヘキモノハ獨逸自身ノ國防軍ナリトス

五、「日獨關係」、日獨協定ハ文化破壊工作ニ對スル防衛ノ目的ヲ有ス右破壊工作ハ今日西班牙ニ於テ猖獗ヲ極メツツアルモ明日ハ極東ニ於テ將又明後日ハ世界ノ他ノ地方ニ於テ行ハレスト何人モ斷言スルヲ得ス全獨逸國民ハ他列強ニ於テモ理性戰線ヲ強化シ且平和及文化ノ擁護ノ爲時代ヲ正確ニ認識センコトヲ希望ス

~~~~~

386

昭和12年10月4日  
在独国武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

原料品の獲得と旧植民地回復要求の關係に言  
及したヒトラー演説報告

ベルリン 10月4日後発  
本省 10月5日前着

第四一號

三日「ハノーバン」ノ南方ノ村「ブツ、ケベルヒ」ニ開カ  
レタル恆例ノ收穫感謝祭ニ於ケル演説中「ヒ」總統ハ植民  
地問題ニ言及シ今日獨逸カ國土狹少、原料不足ノ故ヲ以テ  
植民地要求ヲ爲スニ當リ周圍ノ世界ハ頭ヲ背ケ且植民地保  
有ノ無益ニシテ且之ナクトモ原料ハ自由ニ購入シ得ヘキヲ  
主張スト雖若シ十五年前世界カ獨逸ノ舊植民地ヲ奪掠セサ  
リシナランニハ獨逸モ右ノ購買力ヲ有シタリシナルヘク其  
ノ他是等ノ言分ハ何レモ矛盾シ居レリ云々ト述ベ機會アル  
毎ニ舊植民地回復ノ要望ヲ繰返シ他日ノ機會ヲ待チツ、ア  
ルノ態度ヲ示シタリ

387

昭和12年11月3日  
広田外務大臣より  
在独国武者小路大使宛(電報)

連盟委任統治制度を否認し旧植民地返還を要  
求する宣言が近く開催の独国国会で発表され  
るとの報道につき真相探查方訓令

本省 11月3日後7時30分発

第二七一號

一日貴地發ウ、P電報ハ「ヒトラー」ハ近ク開催セラルヘ  
キ特別國會ニ於テ聯盟ノ委任統治制度ヲ否認シ舊獨領植民  
地返還ノ要求ヲ宣言スル筈ナリト傳ヘラレ居ル旨報道シ居  
ル處先般ノ「ムソリニー」「ヒトラー」會談ニ於テモ植民  
地問題議セラレタルヤニ傳ヘラレタル次第モアルニ付右眞  
相御探查ノ上回電アリタシ

388

昭和12年11月6日  
在独国武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

独国の旧植民地回復要求に関する伊国大使の  
内話報告

ベルリン 11月6日後発

本省 11月7日前着

#### 第四九二號

貴電第二七一號ニ關シ(「ヒットラー」)ノ植民地返還要求宣  
言說ニ關スル件)

五日在獨「アトリコ」伊國大使ト會談ノ際右確メタル處同  
大使ハ過般「ム」首相訪獨ノ際「ヒ」總統トノ話合ハ歐洲  
政局ノ將來ニ付テハ大局の意見ノ交換ノミニシテ西班牙問  
題以外ハ具體的問題ニ觸レス從テ植民地問題ニ付テハ何等  
ノ話出テサリシ次第ナリト述ヘタル上植民地問題ニ付テハ  
獨伊ノ間ニハ客年ノ「チアノ」、「ノイラート」ノ會談ノ際  
若干之ニ言及セラレタルモノトテモ主トシテ「エチオピア」  
開發方法ニ關スル協力ニ付意見ノ交換ヲ行ヒタルモノナリ  
ト附言セリ惟フニ獨ハ舊植民地問題ニ關シテ特ニ具體的ニ  
未タ方策樹タサル如キモ舊植民地就中西南及東阿弗利加ニ  
對スル要求ヲ絶エス凡ユル機會ニ繰返シツツ徐ニ英國側等  
ノ輿論ノ動向ヲ見ントノ態度ニ出テツツアルモノト思料セ  
ラルルト同時ニ獨逸側ノ要求ニ依リ餘リ苦痛ヲ感スルコト  
ナキ伊國側ニ於テ右獨逸側ノ言論ニ對シ氣勢ヲ添フル態度

ニ出ツルコトハ伯林、羅馬樞軸以來ノコトニシテ其ハ當然  
今ニ始マリタルコトニハアラスト思考セラル

~~~~~

#### 389

昭和12年11月27日 広田外務大臣より  
在英国吉田大使宛(電報)

独国の旧植民地回復要求に対し英仏両首腦が  
ベルサイユ条約改訂のための国際會議開催に  
同意するとの風説につき真相探查方訓令

本省 11月27日後8時30分発

#### 第五一四號

二十六日貴地發「アバス」ハ英獨會談ノ中心カ獨ノ植民地  
返還要求ニアリタルハ疑ナキ處右會談ニ鑑ミ英佛兩國首腦  
部ハ「ヴェルサイユ」條約ノ植民地條項改訂ノ爲國際會議  
招集ニ同意スルヤモ知レサル旨報道シ居ル處御承知ノ通り  
本植民地問題ハ我方ニ至大ノ關係アルト共ニ今後世界的問  
題ニ發展スル可能性アルヘキニ付本問題ノ推移ニ付テハ絶  
ヘス御注視ノ上真相御突止メ相成隨時電報アリタク差當リ  
右國際會議開催說ノ真相出來得ル丈ケ御探查ノ上電報アリ  
タシ

訓令トシテ獨佛伊白へ、參考トシテ米、其ノ他ノ在歐各大使及壽府へ轉電アリタシ

~~~~~

390

昭和12年12月1日

在英国吉田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

# 旧独領植民地回復問題に関する英仏首脳会談

## での討議内容につき情報報告

ロンドン 12月1日後発

本省 12月2日前着

第九四〇號

佛首相ト懇意ナル佛國人ヨリ聞込ミタル情報ニ依レハ今次英佛會談ノ「ライン」ハ大體「コンミニニケ」(往電第九三九號)ノ通りナルカ特ニ重要案件トシテ取扱ハレタル植民地問題ニ付「ハリファクス」ヨリ「ヒットラー」ハ「タンガニカ」ノ對獨返還カ軍事上其ノ他ノ理由ニ依リ英側ニ反對アルコトヲ充分承知シ居ルモ他方獨逸トシテハ原料及移民ノ爲飽迄植民地領有ヲ欲スルヲ以テ結局英、英自治領、佛、葡萄牙、白耳義、和蘭等(ヒ)ハ日本ヲ指摘セザリシ由(ニ依リ植民地ノ「プール」ヲ構成シ本問題ヲ解決

スルノ外ナキコトヲ認メ居ル趣披瀝セル由ナルカ英佛首相トモ斯カル「プール」ヲ強制ノ急先鋒トシテ全責任ヲ負擔スルコトヲ欲セサル旨ヲ明カニセル由從テ自治領及關係國政府ト豫メ内協議ノ上其ノ結果次第ニ依リ或ハ將來各植民地所有國ニ依リ會議開催ノ必要モ生スヘク之カ實現ヲ見ルトスルモ猶數年ヲ要スヘシトノコトナリ(此ノ點「ヒ」モ承知シ居ルコト新聞報ノ通り)

(2) 又佛首相ハ英首相同様植民地問題ハ軍縮其ノ他ノ一般關係特ニ歐洲問題ノ一部分トシテ取扱ハルヘキ旨ヲ言明セル趣ナル處元來獨逸ノ諸要求ニ對シテハ「イーデン」及「デルボス」ハ比較的冷淡ナル態度ヲ持シ殊ニ「デ」ノ如キハ獨ヲ除キ中歐及東歐諸國ノ同盟構成方ヲサヘ考ヘ居レル程ナルカ今次會談ニ於テ兩首相ハ何レモ對獨關係改善ニ熱意ヲ示シ歐洲問題解決ノ條件トシテ植民地問題ハ素ヨリ中東歐問題ニ付テモ獨ニ好意ヲ示スコトニ了解ヲ遂ケタル由

極東問題ニ付テハ「イーデン」ヨリ米國ノ協力拒絶ニ關スル悲觀的報告アリ英佛双方トモ現下ノ實狀ニ於テハ何等實際的措置ヲ執リ得サルコトヲ認メ又英側ハ伊國新聞カ英佛攻撃ヲ中止スルコトヲ前提トシテ伊國トノ間ニ速ニ話合ヲ

進メ度キ意嚮ヲ述ヘタル趣ナリ尙貴電第五一四號「アバ  
ス」通信ニ付謀報者ヲシテ取調ヘシメタル處ニ依レハ右ハ  
英國筋ヨリ出テタル「ニユース」ナルコトハ確カナルモ夫  
レ以上ハ判明セストノコトナルモ前述ノ如ク國際會議招集  
ハ前途遼遠ト觀測シ得ヘシ  
佛獨ヘ轉電シ在歐各大使(波、土ヲ除ク)壽府ヘ暗送セリ

編 注 本書第515文書。

391 昭和12年12月2日

広田外務大臣より  
在英国吉田大使宛(電報)

独国の旧植民地回復要求をめぐる英独および  
英仏首脳会談の情報探查方訓令

本省 12月2日後4時20分発

第五一八號

往電第五一四號ニ關シ

獨逸ノ植民地返還要求ヲ廻ル最近ノ英獨並英佛會談ノ内容  
ニ付出來得ル限り真相御突止メノ上至急回電アリタシ  
冒頭往電ノ通轉電アリタシ

392

昭和12年12月4日  
在仏国杉村大使より  
広田外務大臣宛(電報)

独国の旧植民地回復要求をめぐる英独および  
英仏首脳会談の情報につき報告

パリ 12月4日後発

本省 12月5日前着

第七三一號

英宛貴電第五一八號ニ關シ(獨逸ノ植民地回復問題ト英獨、  
英佛會談)

三日「レジエー」曰ク佛首相及外相ノ倫敦訪問中植民地問  
題ニ付テハ實ハ充分意見ヲ交換セスシテ止ミタル次第ナル  
カ獨トシテ若シ歐洲ノ安全保障ニ付何等カ確約ヲ與フルニ  
於テハ英佛トシテハ植民地ノ返還又ハ分配ニ付考慮ノ餘地  
ナキニアラサルモ「ヒットラー」ハ「ハリファアックス」ニ  
對シ唯一方的ニ權利トシテ之ヲ要求スルノミニテ何等對價  
ヲ支拂ハントセサル由ナレハ英佛トシテハ初ヨリ話ニナラ  
ヌトノ結論ニ到達セル次第ナリ「ハ」ノ訪獨ハ當初純然タ  
ル「スポーツ」的ノモノナリシカ各國新聞カ種々臆測ヲ逞  
フシ何時ノ間ニカ政治的ニ獨ノ内意ヲ打診セル感ヲ與ヘタ

ルニ依リ後日ノ誤解ヲ避クル爲佛首相及外相ノ訪英ト迄事件カ發展シタル次第ナルモ「ハ」ニ對シ「ヒ」及「ナチス」ノ幹部連何レモ勝手ナ熱ヲ吐キ其ノ主張スル所往々矛盾シ獨ノ眞意奈邊ニ在ルヤヲ知ルニ苦シマシメタル由ニテ到底眞面目ニ相手ト爲シ得サルヲ感シタルハ英モ佛モ「ハ」ノ話合ニハ「スイツト」ヲ附セサルコトニ相談一決セリ尙其ノ後世間ニ傳ヘラルル「ノイラート」訪英ノ噂ノ如キハ跡形モナキ話ナリ云々

英、獨、伊、白へ轉電セリ

~~~~~

393 昭和13年2月23日 在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

# 独国の満州国承認問題および植民地回復問題 に関する独国外相との会談内容報告

ベルリン 2月23日午後  
本省 2月24日前着

第八九號(極秘、館長符號扱)  
豫テノ約ニ依リ二十二日「リツベントロツプ」外相ヲ往訪シ各種問題ニ付話合ヒタルカ先ツ本使ヨリ「ヒ」總統ノ演説(編注)

ニ依リ獨逸ノ對支政策ハ極メテ明諒トナリ又滿洲國承認問題ニ付テモ本使豫テノ希望通り其ノ實現ヲ見タルハ極メテ欣快トスル所ナリト述ヘタルニ對シ「リ」ハ滿洲國承認問題ニ付テハ先日御話セル通り種々ノ事情アリタルカ其ノ後自分モ促進方ニ盡力シ今回總統ノ勇斷トナレル次第ナリ日本ニ關係アル其ノ他ノ問題ニ付テモ總統ハ充分其ノ態度ヲ明カニセル譯ニシテ兩國間ニハ種々共通ノ利害ヲ有スル次第ナルニ付永ク友邦トシテ提携協力センコトヲ希望スル旨述ヘタリ

本使ヨリ更ニ「ヒ」ノ演説中植民地回復ニ關スル點ヲ引用シテ日本政府トシテハ獨逸ノ本件ニ關スル希望達成ニ付テハ充分ノ同情ヲ有スルモノナルコト他方南洋委任統治區域ハ我方ニ於テ飽迄保有スル必要アルコト竝ニ寧ろ兩國關係ヲ強化スルコトナルヘキ方法ニ依リ解決シ度キ考ナル旨ヲ述フルト共ニ舊獨領植民地ノ地位ニ關スル法理的竝ニ沿革的關係モアリ合理的方法ニ依リ之ヲ解決セントスルニハ英佛等關係諸國トノ話合ニ依ル外ナカルヘキニ依リ先ツ英佛等トノ交渉進行ノ模様ニ付承知シ度シト述ヘタルニ對シ「リ」未タ具體的交渉ニ入ルニ至ラス先般「ハリファツク

ス」來伯ノ際本問題ニ觸レタルモ極メテ明諒ナラスシテ終リタリ獨トシテハ「ヒ」總統ノ演說ニ於テ其態度ヲ明白ニセル譯ナルヲ以テ寧ロ英佛側ヨリ何等カ意思表示アルヘキコトト考ヘ居ル次第二テ英國ヨリ何等提議シ來ルヘシトノ聞込アルモ之トテモ未タ明カナラス獨トシテハ勿論舊植民地全部ノ返還ヲ希望スルモノナルカ自分モ就任勿々ニシテ明確ナル具體の方策ヲ樹ツルニ至ラス兎ニ角本問題ニ關スル日本ノ好意的考慮ハ大イニ感謝スル次第ナルニ依リ今後モ貴使ト密接ナル聯繫ヲ保持シ何等カ事態ノ進展アラハ雙方ニ於テ通報聯絡スルコトト致シ度シト述ヘタリ

編 注 本書第517文書参照。

394 昭和13年10月24日

在独国東郷大使より  
近衛外務大臣宛(電報)

## 植民地問題に関する独国半官通信の報道振りについて

ベルリン 10月24日後発

本 省 10月25日前着

### 第六四〇號

二十二日獨逸半官通信(外交政治通信)ハ植民地問題ニ關シ左ノ如キ報道ヲ掲ケタリ

「チエツコ」問題カ解決ヲ見ツツアル今日英國朝野ノ各界ニ於テハ再ヒ植民地問題カ登場シ攻撃の言論ト手段ヲ弄シツツ獨逸ノ要求ヲ斥ケントスルカ如キ示威運動カ認めラルルモ右ハ獨逸ノ立場ト行動牽制ニ聊カナリトモ影響ヲ及ホスモノニアラス獨逸ハ正當ナル權利トシテ他國ニ屬スルモノハ何物ヲモ要求セス此ノ法律的見解ハ「ヒ」總統ニ依リ屢々高調セラレタル所ナリ之ニ反シ獨逸ハ誹謗の主張ニ基キ嘗テ奪取セラレタル領地ハ之ヲ要求スルモノナリ舊領土カ當時何レノ管理者ノ手ニ委ネラレタルカハ之ヲ問ハス假令該領域カ利用國ニ取り極メテ有用ニシテ殊ニ自己ノ所有物トスルコトカ甚タ望マシト云フカ如キ事情ハ問題ニアラス獨逸植民地ハ二十年ノ長キニ亘リ他國ノ利用ニ供セラレタル處獨逸ノ見解ヲ以テスレハ右利用期間ノ長キ程嘗テ行ハレタル不當力遂ニ再ヒ除去セラレ管理者カ其ノ所有物ヲ獨逸ニ返還スルヲ急務トスルコトハ健全ナル法的意識ノ命スル所ナリ獨逸ノ見解ハ世界ノ知悉スル所ニシテ敢テ説明

ヲ必要トセス又歪曲誤解ヲ許サス本問題ノ解決ノ爲「イニシアティブ」ヲ取ルハ獨逸ノ爲スヘキコトニアラス舊狀回復ニ着手スヘキ責任アル國ノ爲スヘキ所ナリ  
米ニ轉電シ在歐大使ニ郵送セリ

395

昭和13年10月28日  
近衛外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

植民地問題をめぐる独国主張をヒトラーが英  
仏両国に内示したとの英国報道につき通報

本省 10月28日後8時10分発

第四二二號

二十五日倫敦發 I・N・S 電報ハ「ヒットラー」總統ハ其ノ將來ノ外交政策ヲ英佛兩國政府ニ内示シタルカ右ハ(一)植民地要求ノ満足(二)獨逸外國貿易ノ伸展(三)或種爆撃機ノ禁止ヲ含ム軍備制限(四)通貨協定ヲ締結シ獨ハ右ニ米國ノ加入ヲ求ムヘシノ四點ヨリ成ル旨及植民地問題ニ關シ「ヒ」ハ英カ「タンガニイカ」ヲ獨ニ返還シ得ザル事情ヲ了解シ之ヲ固執セサルモ之カ補償トシテ他ノ舊獨領植民地全部ノ返還ヲ主張シ右ハ究極ニ於テ白領「コンゴ」及葡領「アンゴラ」

一部ノ獨ヘノ分割ヲ含ムモノナルコト竝ニ亞弗利加ニ於ケル獨領植民地ハ之ヲ散在セシメス連結セラレタル一帯ノ領土トスヘキコトヲ主張シ居ル旨ヲ報シ居レリ御參考迄  
英佛ニ轉電アリ度シ

396

昭和13年11月2日  
在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

植民地問題をめぐる独国主張をヒトラーが英  
仏両国に内示したとの英国報道は事実無根と  
の情報報告

ロンドン 11月2日後發

本省 11月3日前着

第八一三號

獨宛貴電第四二二號ニ關シ(獨逸植民地要求ニ關スル件)「ミュンヘン」會議以後英獨ノ關係漸次動キツツアルハ往電第八〇一號談話ノ通りナルカ特ニ本通信ノ事項ニ付テハ岡本ヲシテ情報交換旁當地獨逸大使館係官ニ就キ斯ル事實ノ有無ヲ尋ネシメタル處「ミュウニツヒ」協定以後一般的空氣ハ獨逸ニ餘程明ルクナリタルハ事實ナルモ此ノ際獨逸

側ヨリ英佛ニ對シスル政策ヲ内示スルカ如キコトハ考ヘラ  
レス當地大使館トシテハ何等スル情報ヲ有シ居ラスト答ヘ  
更ニ岡本ヨリ種々突込ミテ質問シタルニ對シ獨逸側トシテ  
ハ英佛ニ「アプロウチ」セントシテ種々「サウンド」シツ  
ツアルモノトモ觀測シ得ヘク空軍制限問題ノ如キモ獨逸ハ  
英佛ニ對シ絶對優勢ナル空軍ヲ有スル現狀ニ鑑ミ獨逸側ヨ  
リ進ンテ何等提議スル意嚮ナキヤニ承知シ居レリ何レニス  
ルモ本件I・N・Sハ「ハースト」系ニテ餘リ信ヲ置ク必  
要ナカルヘシト説明シ居リタル趣ナリ御參考迄  
佛、獨ヘ暗送セリ

397 昭和15年9月9日 在ブラハ市毛(孝三)総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 独国の植民地要求の程度に關し調査報告

付記一 昭和十六年一月十日、条約局第二課作成

「帝國委任統治地域ノ帝國領土編入ニ關スル  
件」

二 昭和十七年二月十七日、条約局第二課作成

「東亞共榮圈內ニ於ケル帝國及敵國ノ委任統治

地ニ對スル處置」

ブラハ 9月9日後発  
本省 9月10日前着

#### 第七八號

獨逸<sup>(1)</sup>ノ植民地要求程度ニ關シ和蘭進軍以來資料ヲ集メ始メ  
タル處結局現實問題トシテハ政府ノ發言ナク要點ニ於テ不  
明ナル嫌アルモ何等御參考迄調査ノ結果左ノ通り

「先ツ黨ノ主張トシテハ黨書ニアルモ(政綱ノ三)「ロウゼ  
ンベルグ」ノ解説ニハ之ニ觸レス「マインカンフ」ハ舊  
政府ノ植民政策ヲ攻撃シ寧ロ大陸ニ於ケル地域獲得ヲ第  
一トスヘカリシ趣旨ヲ二箇所ニ於テ明言セル「ハウスホ  
フア」(元駐日武官ニシテセイメイケンノシソ)ノ意嚮ト  
解セラル而シテ政權掌握後ト雖同問題ニ觸レ始リシハ僅  
ニ四年來ノコト(一九三六年及七年大會、客年一月及十  
月演説)ナルカ

「植民地返還」ノ概括的文句ニ止マリ夫レモ「戰爭シテ  
迄要求スル譯ニアラサル」コトヲ附言シ居レリ

要スルニ英佛ノ大地域ニ比シ獨逸ヲ押込メ置クコトノ不  
當ヲ主眼トシテ「ベルサイユ」改訂ノ正當ヲ裏書スル一

資料トシテ利用スル以上ニ多ク出テ居ラス(本年二月拙信第三〇號又一致ス)

二、刊行物(公的意嚮ヲ代表スルモノ多シ)中ニハ「阿弗利加舊植民地」ノ文字散見ス青島及南洋ニ關シテハ言及スルモノ稀ニシテ夫レモ要求ノ書振ヲ用ヒ居ルモノ見當ラス三、新タニ征服シタル丁抹、蘭、白、佛ノ領地ニ關シテハ何等意嚮現ハレス「キラソー」ノ英佛占領ノ際モ植民地問題トシテハ批評ナシ

尤モ<sup>(3)</sup>「モロツコ」ニ對スル關心ハ戰爭前ヨリ二年來之アルコト御承知ノ通り

四、調査結果右ノ如クニシテ之ニ依リ結論ヲ付ケルコト困難ナルモ我方關係地域ニ付強ヒテ本官ノ推測ヲ述フレハ左ノ如シ

イ、「ヒトラー」ハ少クトモ客秋開戦迄ハ獨逸國民ノ生活確保ヲ主眼トシテノ植民地要求ナルコト疑ナシ此ノ點ヨリスレハ其ノ確保ニ充分ナル丈ノ地域如何カ問題ニシテ右ニ付テハ舊阿弗利加領ヲ以テ足ルコト從來通説(「シヤハト」其ノ他)ト言フヘク青島及我カ南洋ハ素ヨリ南洋蘭及佛領ト雖含マレ居ラサルヘシ

口、戰勝後ノ要求ハ素ヨリ右ト同シカラサルヘキモ「ヒ」<sup>(4)</sup>自身本來ハ世界征服ヲ目的トスルモノニハアラス戰後安定上政治考察ノ間ニ植民地ヲ織込シテ決定スル場合例ヘハ佛領統治ノ不成績ニ對スル從來ノ非難等ニモ顧ミ舊獨領以上ニ手ヲ付ケル危險性ハアリト雖モ右ハ英國式ニ根據地ヲ持ツノ趣旨トハ解セラレス

ハ、獨逸現在ノ考ヘ方ニテハ生命圈ト植民地トハ同一ニアラス植民地圈ノ考慮ハ獨立シテ存シ之ヲ世界四分説ト併セ考察スル時太平洋ニ強キ要望ヲ向クルモノトハ考ヘラレス

二、唯一先ツ回收シタリトハ言ヘ對英妥協ノ危險性最モ注意スヘク英ノ死物狂ニ依リ戰爭冬ニ亘ルコトアレハ其ノ際舊獨領亦既ニ屈服シタル佛、白、蘭、丁抹ノ領地ノ處分ヲ基礎トモシテ紛議再燃ナキヲ保シ難ク之ニ對シテハ要スルニ我方要望ヲ重視セシムルノ事態ヲ作ルコト必要ナリ

ホ、近頃我方態度ノ現ハレヲ見ルニトモスレハ安ク獨逸ノ意向向ヘントスルノ印象ヲ與ヘサルヘキカ廉價ナル追従及意嚮伺ヒハ特ニ獨逸氣質ヲ相手トシテ最モ不可

ナリ進シテ以テ頼ムニ足リ而シテ反對シ得サル實力ヲ收ムルノ一途ヨリノ外ニナシ其ノ既成事實ヲ土臺トシテコソ希望物資ノ供給其ノ他話合ニ乗出シ得ヘク斯クテ始メテ戰爭ノ終了如何ニ拘ラス常ニ我方理想ニ傾聽セシムルコトヲ得ルモノト存ス

## (付記一)

帝國委任統治地域ノ帝國領土編入ニ關スル件

昭和十六年一月十日 條約局第二課

帝國委任統治地域ノ帝國領土編入ニ關シテハ(一)獨逸國トノ條約或ハ議定書ニ依リ後者ヲシテ帝國ハ割讓ヲ約セシムル方法及(二)該地域ノ帝國領土編入ノ宣言ヲ爲シ獨逸國ヲシテ之ヲ確認セシムル方法ノ二アリト思考ス

(一)平和條約第百十九條ハ「獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス」ベキコトヲ規定シ居ル處若シ右條項ニシテ當初ヨリ全然效力ナキ規定ナリトセハ獨逸國ハ依然其ノ海外屬地ニ關シ一切ノ權利及權原ヲ有シ居ルコトトナリ帝國ニシテ其ノ委任統治地域ヲ領土ニ編入セントセハ獨逸國ヲシテ正

式ニ割讓ヲ約セシムル要アリト思考ス

(二)平和條約第百十九條ニシテ少クトモ一旦效力ヲ發生スルモノナリトノ見解ヲ執ルトキハ獨逸國ハ既ニ一旦其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ拋棄セルモノナルニ付獨逸國ハ帝國ノ委任統治地域ニ關シテモ何等權利ヲ主張シ得ザルモノナリ

而シテ斯ク獨逸國ノ拋棄セル海外屬地ノ處分ニ關スル規定トシテハ帝國委任統治地域ニ關シテハ平和條約第二十二條大正八年五月七日巴里講和會議決議及大正九年十二月十七日國際聯盟理事會決定(赤道以北太平洋舊獨逸領諸島委任統治條項)ノ三アリ而シテ國際聯盟組織ノ事實上崩壞セル現今ニ於テ右三規定ハ何レモ效力ヲ喪失セルコトヲ主張シ得ベキモノト思考ス從テ現今ニ於テハ帝國委任統治地域ニ關シ獨逸國ガ其ノ一切ノ權利及權原ヲ拋棄シテ以來何等有效ナル國際約束無キモノト看做スコトヲ得ベク帝國ハ一方の併合ノ意志表示ヲ爲シ以テ之ヲ其ノ領土ニ編入スルコトヲ得ベシ、而シテ其ノ際右地域ガ曾テ獨逸國ニ歸屬シタルコトアル經緯ニ鑑ミテ獨逸國ヲシテ之ヲ確認セシメ置クコト適當ナルベシト思考ス

(付記二)

東亞共榮圈內ニ於ケル帝國及敵國ノ委任統治地

ニ對スル處置

(昭和一七、一八、一九 條二)

一、第一次歐洲戰爭平和條約ガ締結セラルルニ先立チ大正八年五月七日巴里講和會議ニ依リ赤道以北ノ獨逸領諸島ハ之ヲ帝國ノ委任統治トシ獨逸領「サモア」諸島ハ新西蘭ノ委任統治トシ「ナウル」ハ英國ノ委任統治トシ右「サモア」諸島及「ナウル」ヲ除ク太平洋中赤道以南ノ獨逸領諸島ハ濠洲ノ委任統治トスベキコト決定セラレタリ  
次デ平和條約署名セラレ其ノ第二十二條ニ依リ委任統治制度ノ原則的規定トシテ先進國ハ「聯盟ニ代リ受任國トシテ」右委任統治地域ノ「後見ノ任務」ヲ行フベキコト及其他種々ノ受任國ノ義務ニ付約定セラレ尙第百十九條ニ於テ獨逸國ハソノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ「主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス」ヘキコトノ決定ヲ見タリ

二、右東亞共榮圈內ニ於ケル各委任統治地域ノ主權ガ果シテ

何レニ在リヤハ明瞭ナラズ、右各地域ノ主權ガ受任國即チ帝國、英國、濠洲及新西蘭ニ夫々歸屬セルニ非ザルハ勿論、他面獨逸國ハ前記第百十九條ニ依リソノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄セルニ依リ右條項ガ尠クモ一且效力ヲ發生セルモノト看做セバ獨逸國ニモ在ラザルコト明瞭ナリ

(現ニ右第百十九條ハ事情<sup>(情カ)</sup>ノ變更ニ依リ既ニ效力ヲ喪失セリト認ムルコトヲ得ベキモ尠クモ當初ハ效力ヲ有シタルモノト看做スベキナリ

右條項ニシテ當初ヨリ效力ヲ有セズ從テ獨逸國ハ委任統治地域ニ付依然トシテ主權ヲ有スルモノナリトノ說ハ穩當ナラズト思考ス)

三、前記委任統治地域ノ主權ニ付テハ或ハ國際聯盟ニ在リトナス者アリ或ハ主タル同盟及聯合國ノ共有ニ屬ストノ說アリ前者ハ聯盟規約第二十二條ニ基キ後者ハ平和條約第百十九條ノ規定ニ基クモノナリ(尙A式委任統治地域ニ付テハ主權ハ右地域其ノモノニ在リトナス說アリ)

四、尙帝國ハソノ委任統治地域ニ付テハ聯盟規約第二十二條及大正九年十二月十七日國際聯盟理事會ニ依リ國際聯盟

規約第二十二條八項ニ基キ赤道以北太平洋舊獨逸領諸島委任統治條項ノ決定ヲ見、右條項ニ基キ種々ノ義務ヲ負フモノナリ(他ノ受任國ニ付キテモ同様)ステ主權ノ所在ハ不明ナルモ各受任國ハ其ノ委任統治地域ノ統治ニ關シ聯盟ト緊密關係ヲ有スルハ否定シ得ザルモノトス然ルニ國際聯盟ハ既ニ瓦解シタルカ故ニ右規約及委任統治條項ハ總テ無効ニ歸シタルモノト看做スコトヲ得ベク他面帝國ハソノ委任統治地域ニ關シ米國ト大正十一年二月十一日華盛頓ニ於テ「ヤツプ」島ニ關スル條約ヲ締結シ右ニ依リ種々ノ義務ヲ米國ニ對シテ負フ處右條約モ今次戰爭ニ於テ效力ヲ喪失セルモノト認ムルコトヲ得ベシ

五、斯クテ委任統治地域ノ主權ガ獨逸國及帝國其他ノ受任國ニモ在ラズ然モ右主權ガ何國ニ歸屬スルヤ明瞭ナラザル一方委任統治地域ト國際聯盟トノ緊密關係モ前記ノ如ク既ニ瓦解セル今日ニ於テハ帝國ハ其ノ委任統治地域ヲ無主ノ土地ニ準ジ之ヲ先占スルコトヲ得ベク右ハ單ニ帝國ノ委任統治地域タルノミナラズ英國及濠洲新西蘭ノ夫レニ付テモ然リ

六、但シ先占ノ效果ノ完成ニハ併合ノ明白ナル意思表示ヲ要

スルガ故ニ帝國ハ右地域ヲ帝國ノ領土ニ編入スル意思表示ヲナス必要アリ

七、但シ右領有ノ意思表示ヲナス前ニ南洋委任統治地域ニ關スル獨逸國トノ約定ノ經緯ニモ鑑ミ獨逸國ト諒解ヲ遂グル要アリ

三國條約成立ニ際シ帝國ハ獨逸國ト同國ノ口頭宣言ヲ確認スル文書<sup>(編注一)</sup>ノ交換ヲナシ帝國ノ委任統治地域ハ引續キ日本國ノ屬地タルコトヲ獨逸國ハ承認スベク之ガ爲獨逸國ハ何等カノ代償<sup>(編注二)</sup>ヲ受クルモノトシ其ノ他ノ南洋舊獨逸領殖民地ニ付テハ歐洲戰爭終結ト共ニ自動的ニ獨逸國ニ復歸スベク獨逸國ハ出來得ル限り日本國ニ有利ニ右殖民地ヲ有償ニテ處分スル目的ヲ以テ友好的の精神ニ基キ日本國政府ト協議スルノ用意アルコトヲ約定セリ

乍然右文書交換當時帝國ハ米英ト戰爭狀態ニ在ラス亦之等諸國ト戰爭スルノ意圖ヲ有スルコトナク專ラ中立國トシテ止ルノ意志ヲ有シスル地位ニ於テ當時ノ獨逸戰爭終結後ノ南洋委任統治地域處分ノ問題ヲ約定セルモノナリ然ルニ現今ニ於テハ帝國ハ交戰國トナリ右約定成立當時ノ基礎トナリタル事情ハ全ク變更ヲ來シ居レリ加之獨逸

國自身モ當時右交換文書ニ重大ナル價值ヲ認メタルノ形跡ナク帝國ノ委任統治地域ガ帝國ニ歸屬スル場合ノ代償ニ付テハ單ニ名義上ノミニテ可ナリトセル經過アリ從テ帝國ハ本件交換文書ヲ帝國ノ參戰ト同時ニ廢止セラレタルモノト看做スコトヲ得ベキノミナラズ右ハ本件交換文書ヲ理由トスル太平洋上ニ於ケル舊獨逸領殖民地ニ對スル獨逸國ノ發言權ヲ封ズル爲ニモ必要ナリトス

斯テ帝國ハ右交換文書ハ廢止セラレタルモノトスル見解ノ下ニ帝國ノ南洋委任統治地域ニ付テハ之領有ヲ宣言シ其ノ他ノ舊獨逸領委任統治ニ付テモ占領軍ノ權利ヲ行使シ其ノ終局的處分ハ戰後ニ待ツモノトスルコトヲ得ベシ但シ事前ニ獨逸側トノ諒解ヲ遂グベキ要アリト思考ス

編注一 『日本外交文書 第二次欧州大戰と日本』第一冊第146

文書付記二。

二 「何等カノ代償」に関しては、日独伊三国同盟締結に

関する枢密院審査委員會議事概要（『日本外交文書 第

二次欧州大戰と日本』第一冊第142文書）中にある清水

顧問官質問への松岡外相答弁参照。

~~~~~